

E-4 MPT 療法による M 蛋白の消失を認めた多発性骨髄腫 4 例

○石山泰二郎¹、佐藤忠嗣²

横浜鶴ヶ峰病院¹、横浜労災病院輸血部²

【目的】多発性骨髄腫に対する MPT 療法の有効性が報告されているが、投与法は未だ確立されていない。今回、MPT 療法により M 蛋白の消失を認めた 4 例を経験したので、当院における 48 例の thalidomide 使用症例とともに報告する。【症例 1】69 歳、女性。圧迫骨折で入院後、骨髄腫と診断 (stage IIIA)。MPT 療法開始 (M 2mg/day, P 10mg/day, T 50 mg/day) 87 日後に IgG は 3537mg/dl から 574 mg/dl に減少、免疫電気泳動で M-bow 消失を確認。治療経過中カリニ肺炎を罹患したが、独歩退院。【症例 2】68 歳、男性。腰痛より骨髄腫との診断 (stage IIIA) で紹介入院。MPT 療法 (IgG 4,326 mg/dl) を開始したが、全身浮腫 (10kg 体重増加) で thalidomide を中止。MP 療法のみでしばらく経過観察後、MPT 療法開始 (肺炎既往のため M は隔日投与) 199 日後に IgG は 891 mg/dl から 812 mg/dl に減少、免疫電気泳動で M-bow 消失を確認。【症例 3】79 歳、男性。他院より thalidomide 目的で転院。VAD 療法、MP 療法、MCP 療法施行後で、治療抵抗性 (stage IIIA) の診断。MPT 療法開始 204 日後に IgG 364 mg/dl から 3.3 mg/dl へ減少、免疫電気泳動で M-bow 消失を確認。【症例 4】56 歳。男性。腰痛より骨髄腫との診断 (stage IIIA) で紹介入院。ROAD 療法を治療したところ IgG 347 mg/dl まで低下。その後、外来で MP 療法を施行したが、M 蛋白が消失しないため thalidomide 100mg/day を併用。投与 137 日後に、IgG は投与前 863 mg/dl から 951 mg/dl とやや増加したものの、免疫電気泳動で M-bow の消失を確認。【考察】MP 療法を少量連日投与とし thalidomide を併用した MPT 療法は、初回治療法として高い M 蛋白消失効果を有すると考えられた。